

世界的エネルギー構造の変革に積極対応

—06. 3期営業利益は100億円超が目標—

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 永田昌久

2005年11月29日

ホームページURL:<http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先:経営管理部

総務・広報統括部長 吉村孝憲

TEL:042-330-8000 FAX:042-330-8017

第1部 06. 3期中間決算及び通期予想

(1)06. 3期中間決算及び通期予想

為替予約が進んでおり
今期の業績への為替の影響は僅少

1. 連結損益の状況

(単位:億円)

	05.3 中間実績 (A)	06.3中間 当初計画	06.3中間 実績 (B)	前年 同期比 (B)/(A)	05.3 実績 (C)	06.3通期 当初計画	06.3通期 予想 (D)	前期比 (D)/(C)
売上高	670	720	782	117 %	1,582	1,580	1,670	106 %
連単倍率	1.20 倍	1.20 倍	1.21 倍	—	1.22 倍	1.22 倍	1.19 倍	— 倍
営業利益 (率)	21 3.1 %	23 3.2 %	43 5.5 %	205 % —	77 4.9 %	87 5.5 %	101 6.0 %	131 % —
経常利益	14	15	37	261 %	62	70	86	138 %
当期純利益	9	7	22	227 %	32	34	46	140 %
一株当たり 当期純利益	2.65 円	1.88 円	6.02 円	227 %	8.70 円	9.16 円	12.38 円	142 %

2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	05.3 中間実績 (A)	06.3中間 当初計画	06.3中間 実績 (B)	前年 同期比 (B)/(A)	05.3 実績 (C)	06.3通期 当初計画	06.3通期 予想 (D)	前期比 (D)/(C)
売上高	559	600	646	116 %	1,299	1,300	1,400	108 %
営業利益 (率)	10 1.8 %	14 2.3 %	33 5.1 %	330 % —	48 3.7 %	62 4.8 %	80 5.7 %	166 % —
経常利益	9	12	32	339 %	42	55	73	171 %
当期純利益	7	6	22	273 %	24	28	42	173 %
一株当たり 当期純利益	2.15 円	1.61 円	5.86 円	273 %	6.39 円	7.54 円	11.31 円	177 %
一株当たり 配当金	0 円	0 円	0 円	0 円	3 円	3 円	4 円	133 %

※当初計画は05.3期決算説明会時(平成17年6月8日)を示す

当期純利益の伸張が見込まれるため、
年間配当額を従来計画3円から4円に増額修正

(2) 事業別連結売上高・営業利益の状況

増産効果・価格是正・コスト低減により原料・燃料の高騰を吸収し増益を見込む

(単位: 億円)

		05.3 中間実績 (A)	06.3 中間計画	06.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	05.3 通期実績 (C)	06.3 当初計画	06.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品	売上高	211	275	280	133	523	565	600	115
	営業利益	15	20	26	173	43	55	63	147
機械製品	売上高	440	435	491	112	1,026	995	1,050	102
	営業利益	25	27	38	152	75	80	85	113
地域開発	売上高	19	10	10	53	33	20	20	61
	営業利益	6	3	4	67	11	6	7	64
消去又は配分不能費用		△ 25	△ 29	△ 25	100	△ 52	△ 54	△ 54	104
合計	売上高	670	720	782	117	1,582	1,580	1,670	106
	営業利益	21	21	43	205	77	87	101	131

上期のレビュー

①鉄鋼製品関連事業は、クラッド鋼板及びクラッド鋼管の受注・売上が増加したことに加え、原料・素材費の高騰に対応した代価是正効果等により、計画比増収増益。

②機械製品関連事業は、大型機を中心とした射出成形機及び樹脂製造機械の売上が好調に推移したほか、代価是正、コスト低減を推し進めたことにより、計画比増収増益。

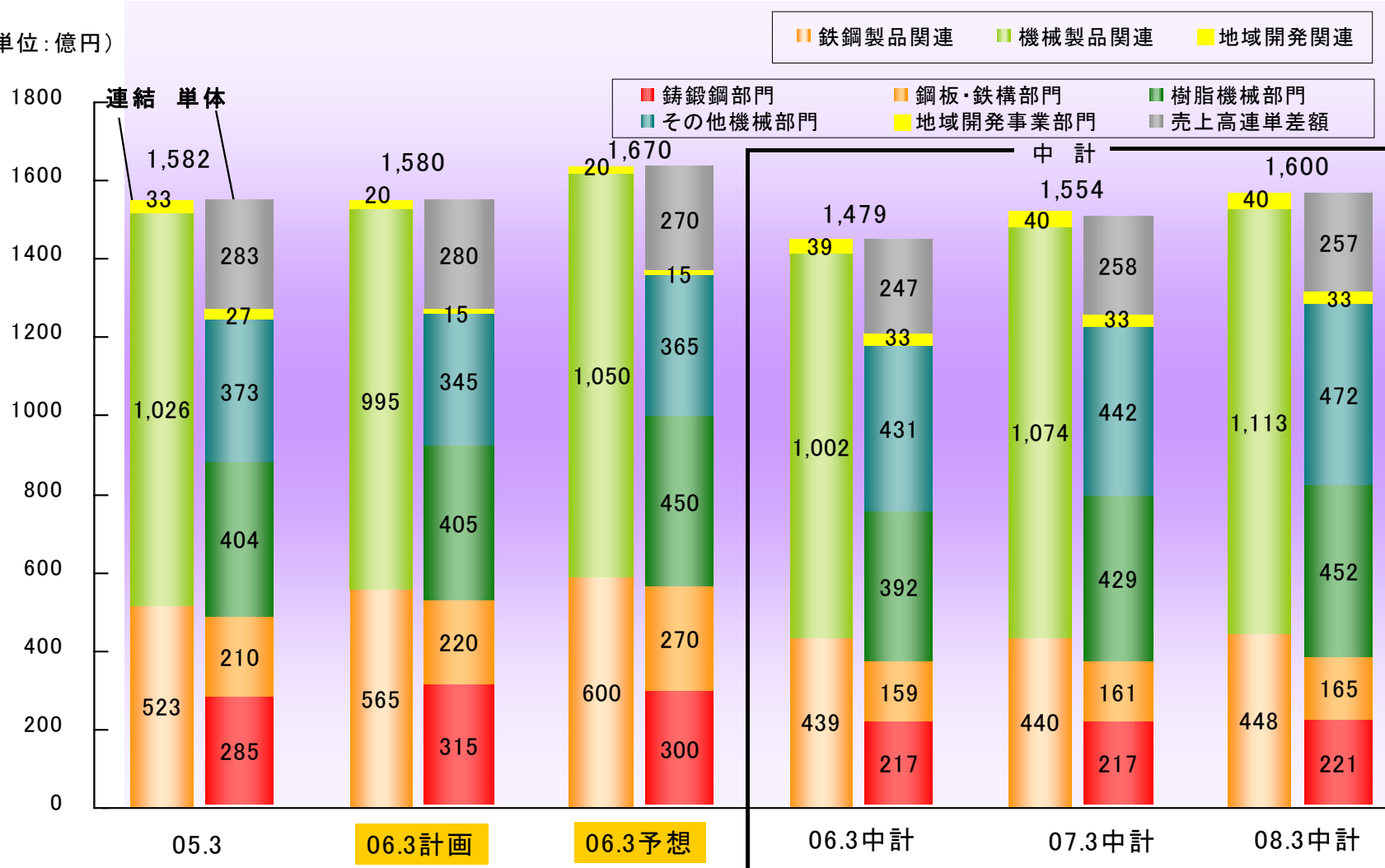
下期のポイント

①鉄鋼製品関連事業は、発電用部材が堅調に推移し、クラッド鋼板及びクラッド鋼管が引き続き好調に推移する見通しから、売上・利益とも計画比増加の見込み。

②機械製品関連事業は、射出成形機が国内自動車分野向けに好調に推移するとともに、樹脂製造機械も中国、中東向け大型案件が継続する見通しから、売上・利益とも計画比増加の見込み。

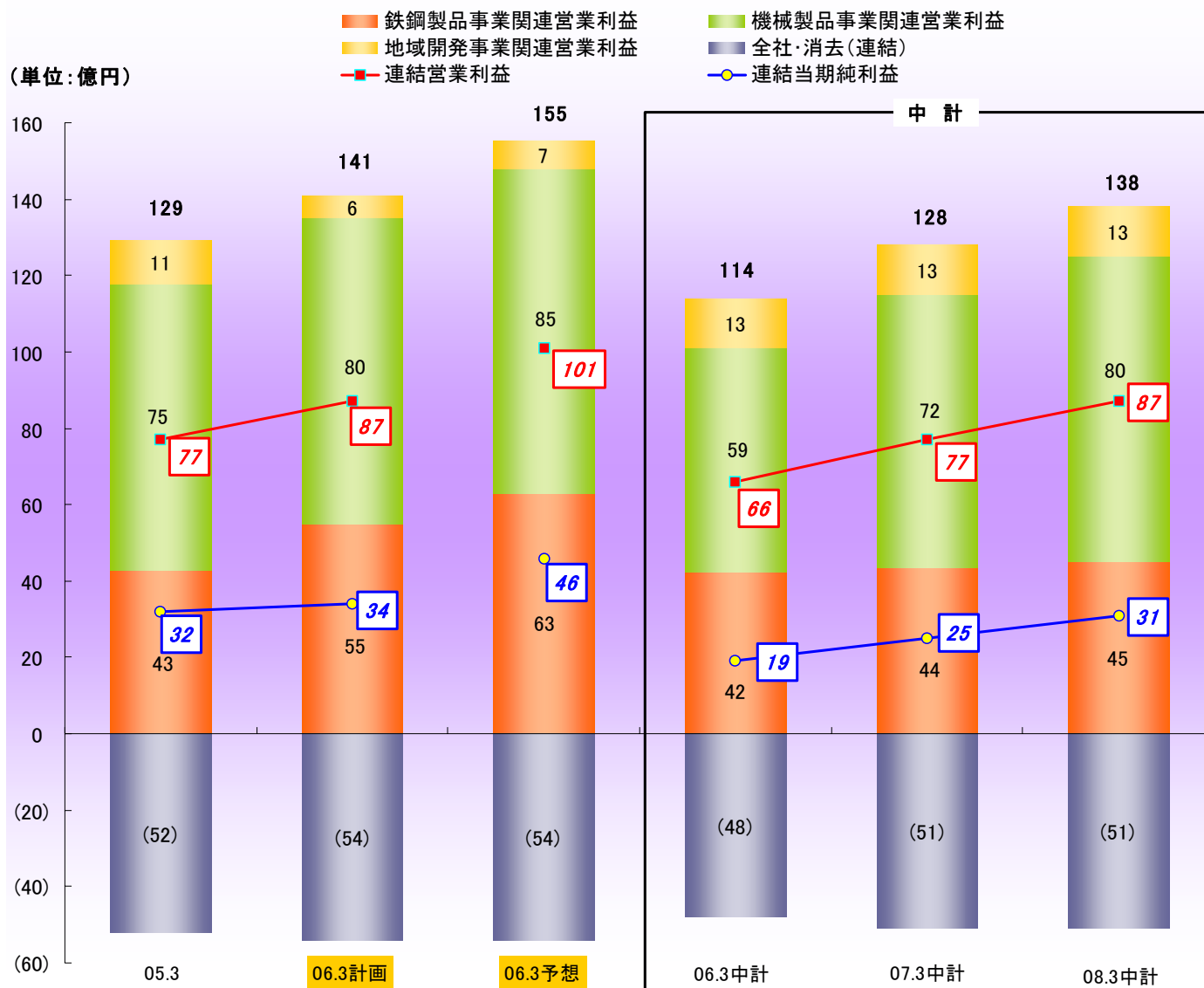
(3)06. 3期業績予想(売上高)ー通期予想は中間時点で上方修正ー

(単位:億円)



(4)06. 3期業績予想(営業利益・当期純利益)

— 営業利益は100億円超が目標 —



(5) 連結セグメント別の業績(売上高・営業利益)

工期短縮により大口パイプ案件の前倒しを見込む

(単位: 億円)

		05.3 中間実績 (A)	06.3 中間計画	06.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	05.3 通期実績 (C)	06.3 当初計画	06.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	128	163	149	116	285	315	300	105
	鋼板・鉄構部門	76	97	114	150	210	220	270	129
	(単体部門計)	204	260	263	129	495	535	570	115
	連結会社他	7	15	17	243	28	30	30	107
	連結売上高	211	275	280	133	523	565	600	115
(営業利益)		(15)	(20)	(26)	(173)	(43)	(55)	(63)	(147)

短納期のクラッド鋼板の増加

生産性向上による増産効果により前年比増益確保

(単位: 億円)

		05.3 中間実績 (A)	06.3 中間計画	06.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	05.3 通期実績 (C)	06.3 当初計画	06.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)	
機械製品関連	樹脂機械部門	194	197	205	106	404	405	450	111	
	その他機械部門	145	135	170	117	373	345	365	98	
	(単体部門計)	339	332	375	111	777	750	815	105	
	連結会社他	(IT関連)	33	35	38	115	97	100	95	98
		(その他)	68	68	78	115	152	145	140	92
	連結売上高	440	435	491	112	1026	995	1,050	102	
(営業利益)		(25)	(29)	(38)	152	(75)	(80)	(85)	113	

堅調な需要が続き売上伸長

樹脂機械の好調で増益を見込む

(6) 連結セグメント別の業績(受注高)

圧力容器で大型案件を受注、ケミカルタンカー・海水淡水化向けのクラッド鋼板も大幅伸長

中国向け火力用部材、米国・韓国向け原子力用部材伸長が継続し大幅増加

(単位: 億円)

		05.3 中間実績 (A)	06.3 中間計画	06.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	05.3 通期実績 (C)	06.3 当初計画	06.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	171	183	204	119	356	335	345	97
	鋼板・鉄構部門	120	167	247	206	256	268	360	141
	(単体部門計)	291	350	452	155	615	603	705	115
	連結会社他	7	15	17	243	28	30	25	89
	連結受注高	298	365	469	157	643	633	730	114

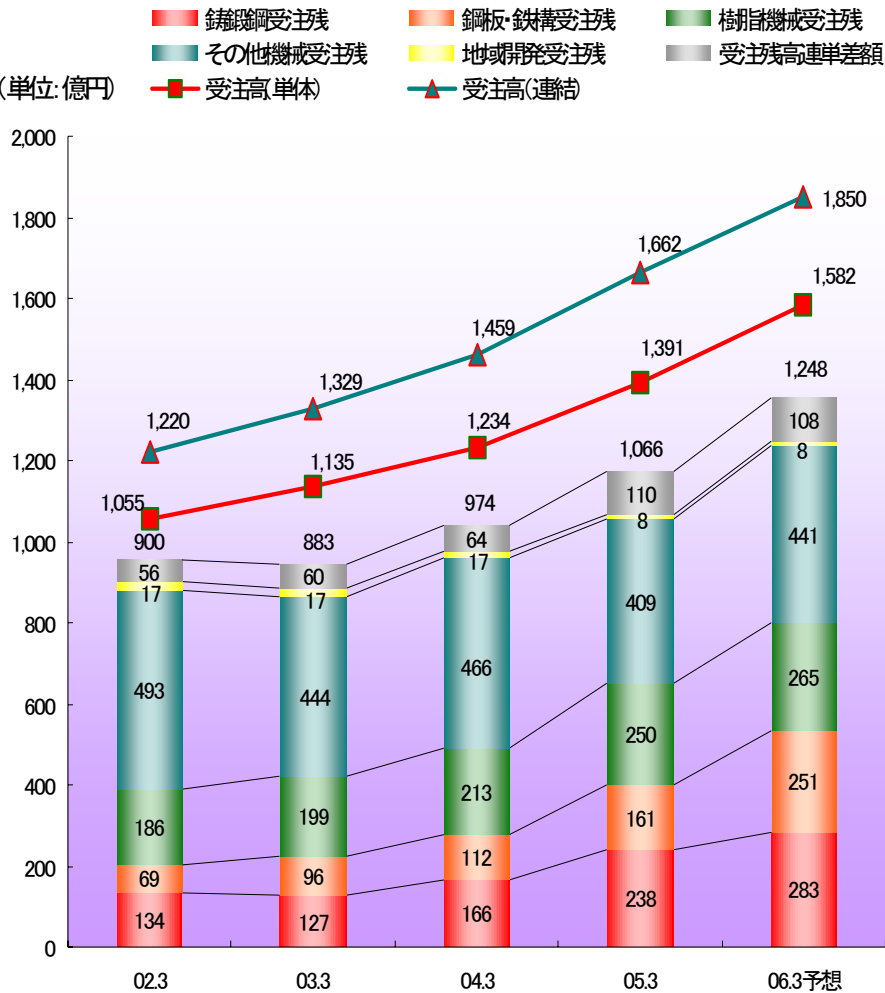
国内向け中・大型成形機が堅調に推移

(単位: 億円)

		05.3 中間実績 (A)	06.3 中間計画	06.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	05.3 通期実績 (C)	06.3 当初計画	06.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
機械製品関連	樹脂機械部門	208	217	259	125	440	430	465	106
	その他機械部門	151	140	177	117	316	342	397	126
	(単体部門計)	359	357	436	121	757	772	862	114
	連結会社他	118	143	131	111	237	252	238	100
	連結受注高	477	500	567	119	994	1,024	1,100	111

環境関連機器が伸長

(7)06. 3期の受注高・受注残高と07. 3期の傾向



06.3期予想

○ 鍛造鋼部門

電子材料用素材の減少があるものの、中国向けを中心とする火力発電用部材、原子力発電設備用部材の受注環境は堅調

○ 鋼板・鉄構部門

クラッド鋼板・鋼管、圧力容器の受注環境は堅調に推移

○ 樹脂機械部門

造粒機・押出機の大型機が中国、中東で需要増加、射出成形機は国内自動車分野向けに中・大型機が好調に推移

○ その他機械部門

圧縮機は中東、中国での需要が継続
マグネシウム合金射出成形機は大手携帯電話メーカーの需要が増加

→ 代価是正、生産能力の向上(生産工程改善等)により、**05.3期比10%以上の受注高確保の見込み**

07.3期予想

(受注・売上)

上記諸施策を更に進めるとともに06.3期の受注残が売上に立つことから、**受注・売上ともに06.3期比増加を見込む**

(営業利益)

製鋼原料・燃料・部品素材単価の高騰分への対応が進むとともに、増産効果、コスト削減が利益に直結し、**06.3期比増益を見込む**

(8) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

(単位: 億円)

	05.3 中間実績 (A)	06.3 中間実績 (B)	対前年増減 (B)-(A)	06.3 通期予想
流動資産	1,049	1,221	172	1,144
固定資産	860	706	△ 154	720
資産合計	1,909	1,927	18	1,864

10月3日期日の社債償還資金預け金70億円を含む

(単位: 億円)

	05.3 中間実績 (C)	06.3 中間実績 (D)	対前年増減 (D)-(C)	06.3 通期予想
流動負債	895	889	△ 6	868
固定負債	467	433	△ 34	367
株主資本	545	598	53	627
負債、少持及 び資本合計	1,909	1,927	18	1,864

株主資本比率	28.6	31.0	2.4	33.6
1株当株主資本	146.8	161.1	14.3	168.9

(単位: 億円)

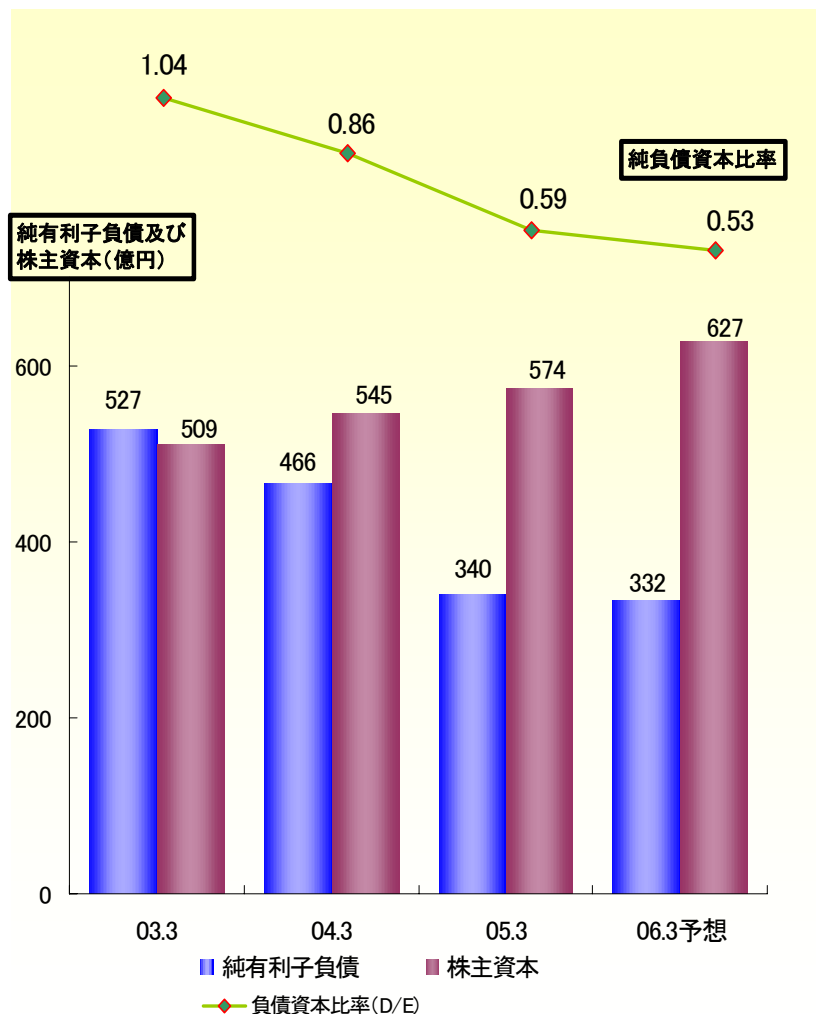
	05.3中間実績	06.3中間実績	05.3通期実績	06.3通期予想
営業活動 キャッシュフロー	△ 42	50	72	61
圧縮資産売却 に係る納税額		△ 69		△ 69
投資活動 キャッシュフロー	△ 18	△ 20	136	△ 54
計	△ 60	△ 39	209	△ 62
財務活動 キャッシュフロー	55	△ 13	△ 119	△ 34
現金及び現金同等物 の期末残高	146	188	70	145
			171	

(9) 財務体質の状況(純有利子負債の推移)(連結)

○06.3期末の有利子負債残高は、05.3期末比23億円減少し487億円

○06.3期の予想純負債資本比率(D/E)は0.53倍

○06.3期末の株主資本比率は33.6%と見込む



	期末	03.3	04.3	05.3	06.3中間	06.3予想
債務償還年数(年) (有利子負債/営業CF)		6.9	7.5	7.0	-	7.9
インタレスト・ カバレッジ・レシオ(倍) (営業CF/利払い)		7.5	7.3	6.9	-	6.7
有利子負債EBITDA倍率(倍) (有利子負債/EBITDA)		6.3	5.6	4.4	-	4.2

(単位: 億円)

有利子負債(A)	681	621	510	579	487
現預金残高(B)	154	155	170	191	145
			69		
純有利子負債 (A)-(B)	527	466	340	388	332

圧縮資産(賃貸事業用ビル)
売却による納税資金相当

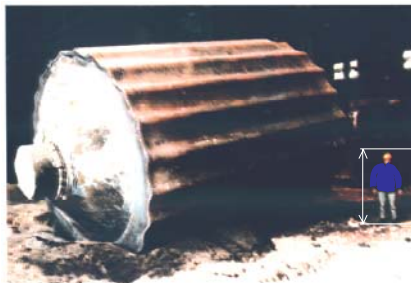
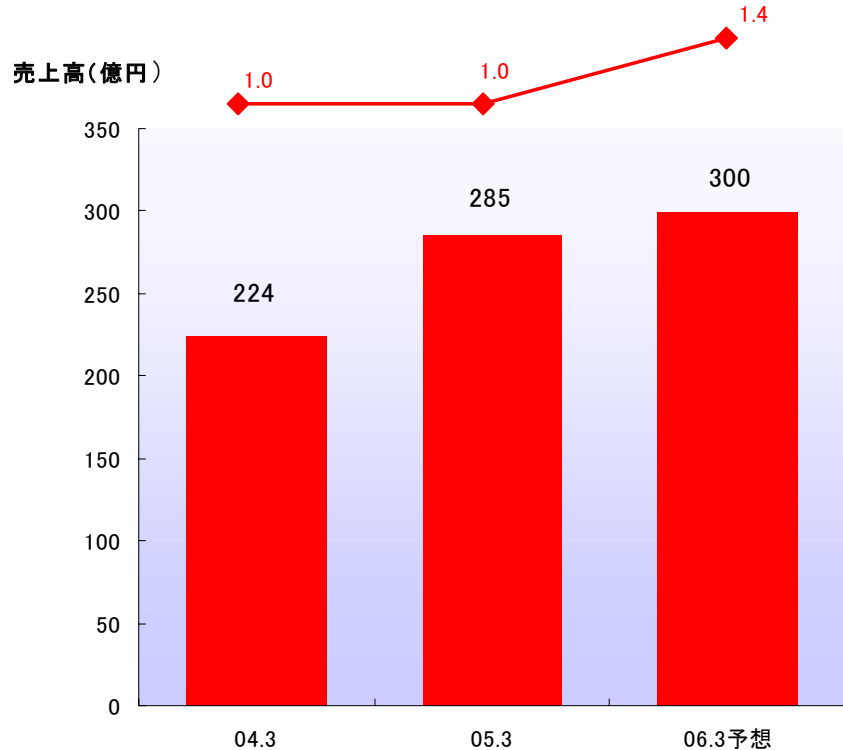
納税資金相当69億円を除く

第2部 各事業部門(単体)の業況・見通し

(1) 鑄鍛鋼部門：火力・原子力発電設備用部材とも 引き続き堅調に推移

鑄鍛鋼部門(単体)の 売上高・営業利益推移

04.3期を1とした
営業利益の係数



◆ 営業利益係数

世界最大600トン鋼塊

06.3下期予想

- 火力発電用ローターシャフトは引き続き中国向け需要が継続
- 原子力発電設備用部材の需要が拡大
- 鉄鋼圧延用ロールも堅調に推移する見込み
- 電子材料用素材は液晶テレビの増加により減少

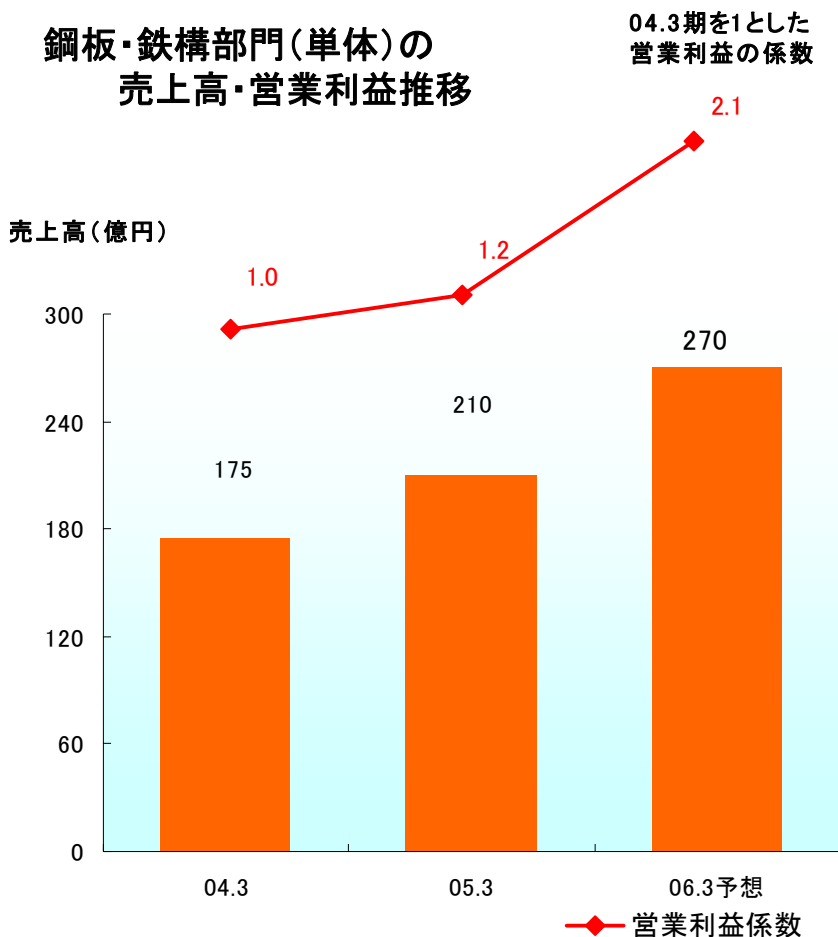
→代価是正が進んだ製品の売上、増産による効果、コスト削減の推進により、06.3期の営業利益は05.3期比40%以上増加の見込み

07.3期予想

中国向けの火力発電用部材は引き続き堅調に推移、国内・中国の原子力発電所新設案件の取り込み原子力発電設備用部材を中心とする生産能力の20%向上、代価是正の更なる推進、増産効果等により、06.3期比増収増益の見込み

(2) 鋼板・鉄構部門：製油所の新規建設と天然ガスプロジェクトは引き続き活発

鋼板・鉄構部門(単体)の売上高・営業利益推移



石油精製用大型圧力容器

06.3下期予想

圧力容器

○中国・中東での製油所新設による大型案件の継続受注に注力

○中東でのGTL(GAS TO LIQUID)の生産に備えた受注・生産体制の確立

○大型台風の影響により米国での更新・新設の動きにも注目

クラッド鋼板・鋼管

○中東での淡水化プラント、ケミカルタンカー向け等のクラッド鋼板の需要は引き続き堅調に推移する見込み

→売上の増加、代価是正の継続、増産による効果、及びコスト削減の推進により、06.3期の営業利益は05.3期比65%以上増加の見込み

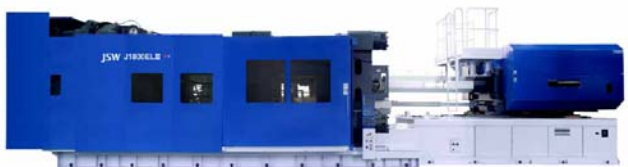
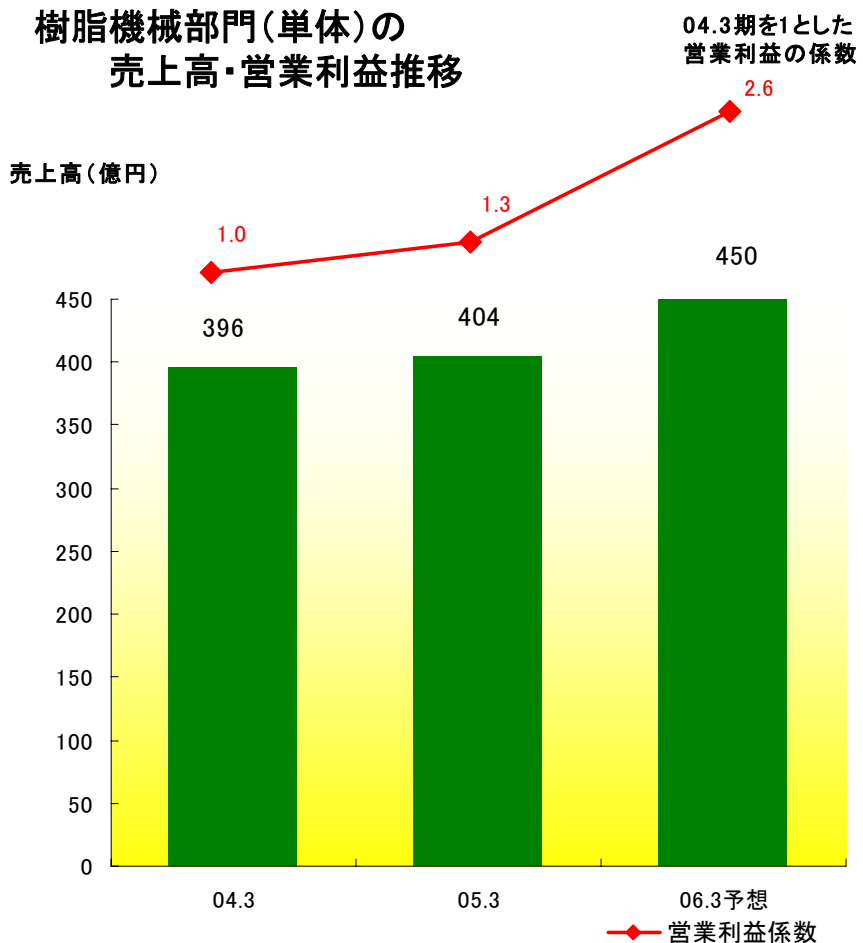
07.3期予想

圧力容器の大型案件、海洋天然ガスプロジェクト、淡水化プラントとも堅調に推移する見込み

圧力容器、クラッド鋼板・鋼管の生産能力20%向上、代価是正の更なる推進、増産効果等により、06.3期比増収増益の見込み

(3) 樹脂機械部門: 成形機は国内自動車分野向けが好調 樹脂製造機械は大型機の需要が増加

樹脂機械部門(単体)の
売上高・営業利益推移



1,300t大型射出成形機

06.3下期予想

成形機

- 中国は自動車工場新設等から再び上昇傾向
- 国内は自動車分野向けを中心に中・大型機の需要が好調→大型機用設備投資により生産能力の20%増を見込む

樹脂製造・加工機械

- 造粒機・押出機は大型機の中東・中国向け売上が継続
- 樹脂加工機械はIT・包装関係の需要増が見込まれるので案件取り込みに注力

→05.3期の不採算工事の一掃、増産及びコスト削減効果により、営業利益は05.3期比100%以上増加の見込み

07.3期予想

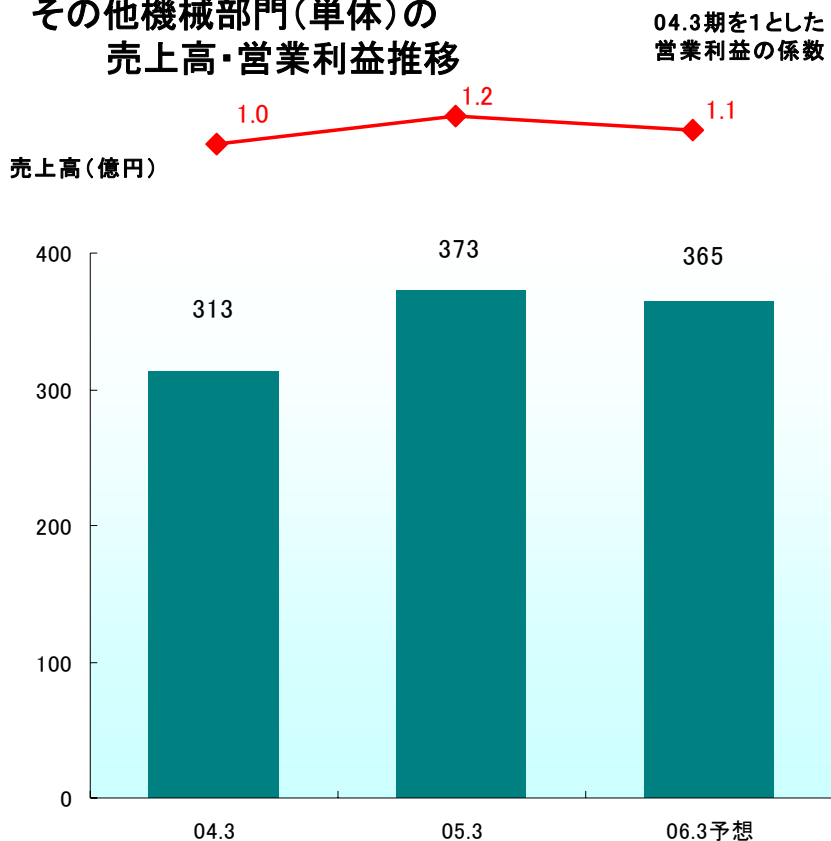
(成形機)生産能力20%向上による大型機の増加、コスト削減等により06.3期比増収増益を見込む

(樹脂製造・加工機械)

中東・中国を中心に市場環境は堅調
大型案件の売上増加、部品素材高の吸収等により06.3期比増収増益を見込む

(4) その他機械部門: マグネシウム合金射出成形機は増加、新エネルギー・環境分野で業容拡大の足掛かり

その他機械部門(単体)の売上高・営業利益推移



SLS型ELA装置

06.3下期予想

IT関連機器

(レーザアニール装置)

○次世代液晶・有機EL向けSLSデモ機の設置効果により韓国、台湾向け受注を取り込む

○代価是正、コスト削減により05.3期比10%以上の増益を目指す

(マグネシウム合金射出成形機)

○大手携帯電話メーカーにおいてマグネシウム部品採用の動きが加速→小型機の受注に注力

新規事業

○風力発電機器用ブレード製造子会社を上期に室蘭製作所内で立ち上げ→タワー、ブレードの自社製造によりコスト競争力を強化

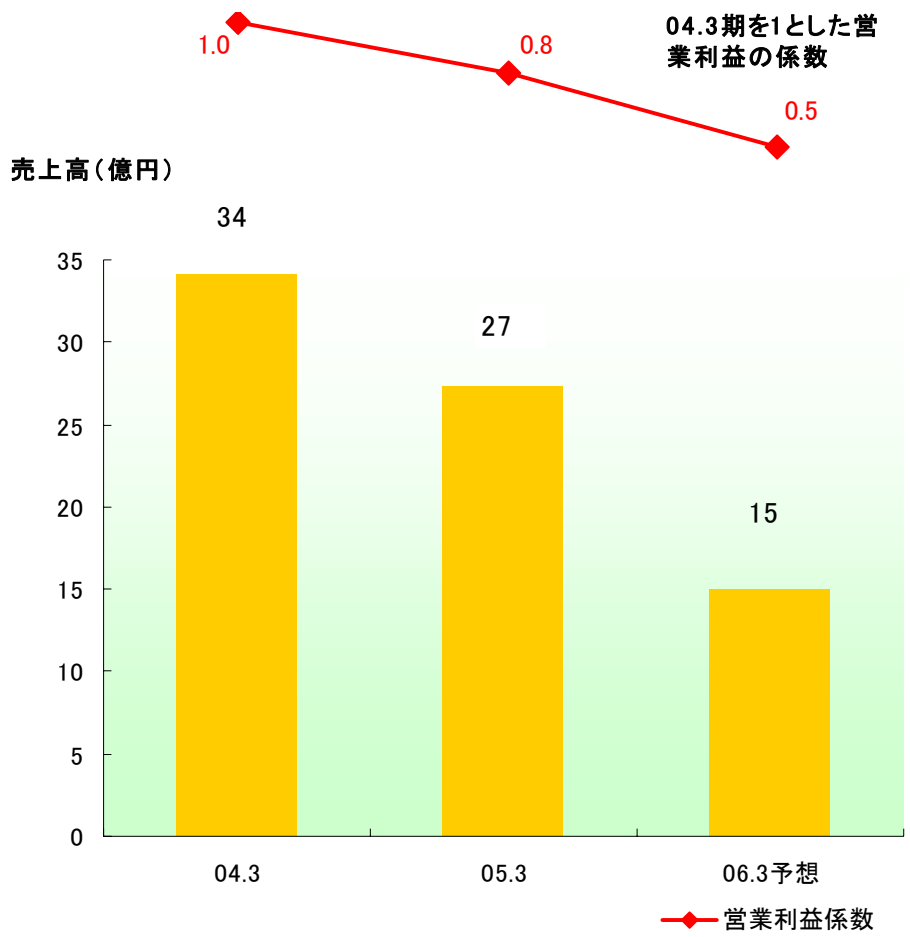
→マグネシウム合金射出成形機、防衛関連機器の増加により06.3期の営業利益は05.3期以上の確保を目指す

07.3期予想

IT関連装置市場は堅調に推移、マグネシウム合金射出成形機は中国、韓国で携帯電話関連の需要拡大、新規事業の積極的な展開により06.3期比増収増益を目指す

(5) 地域開発事業部門: 社有資産の有効活用を推進

地域開発事業部門(単体)の
売上高・営業利益推移



○05.3期に賃貸事業用ビルを売却

→既存賃貸事業により

- ①安定的収益の確保
- ②キャッシュフローの創出



オフィスビル事業(府中インテリジェントパーク)

第3部 新中期経営計画

新中期経営計画の策定スケジュール

現中期経営計画(J2007)の重点項目

- ①収益力の向上 ②有利子負債の削減 ③安定配当の実施

(計画達成状況)

05.3期から08.3期までの中期経営計画を実施
→05.3期、06.3期とも売上高、利益において計画の2年前倒しを達成

(計画前倒しの要因)

エネルギー需要の拡大に伴い、発電用部材、石油精製用圧力容器、クラッド鋼板・鋼管のほか、堅調な設備投資需要に支えられた樹脂製造機械、射出成形機などの主力製品の増加が計画前倒し達成の原動力

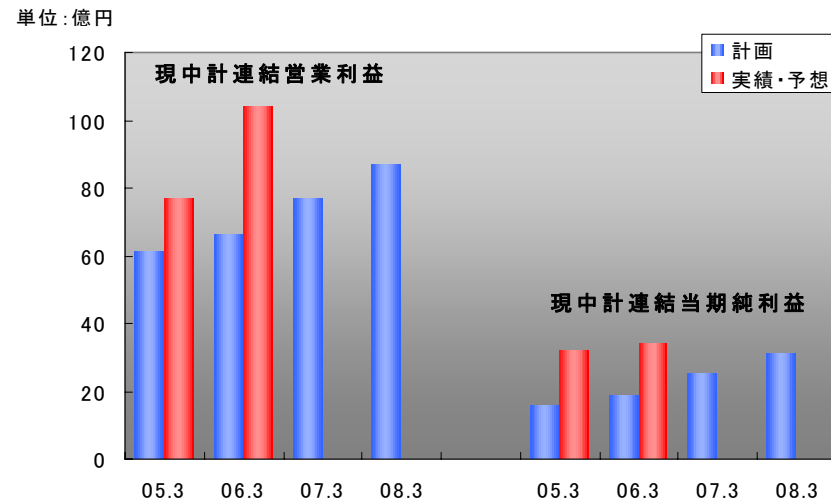
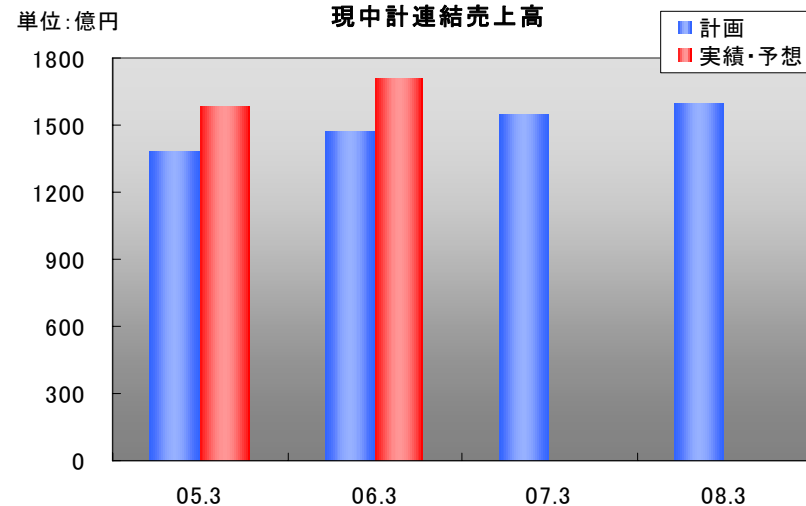


新たな中期経営計画を策定し更なる
企業価値向上を目指す

- ・新中計の策定期間
05年10月～
- ・新中計の実施期間
07.3期～09.3期

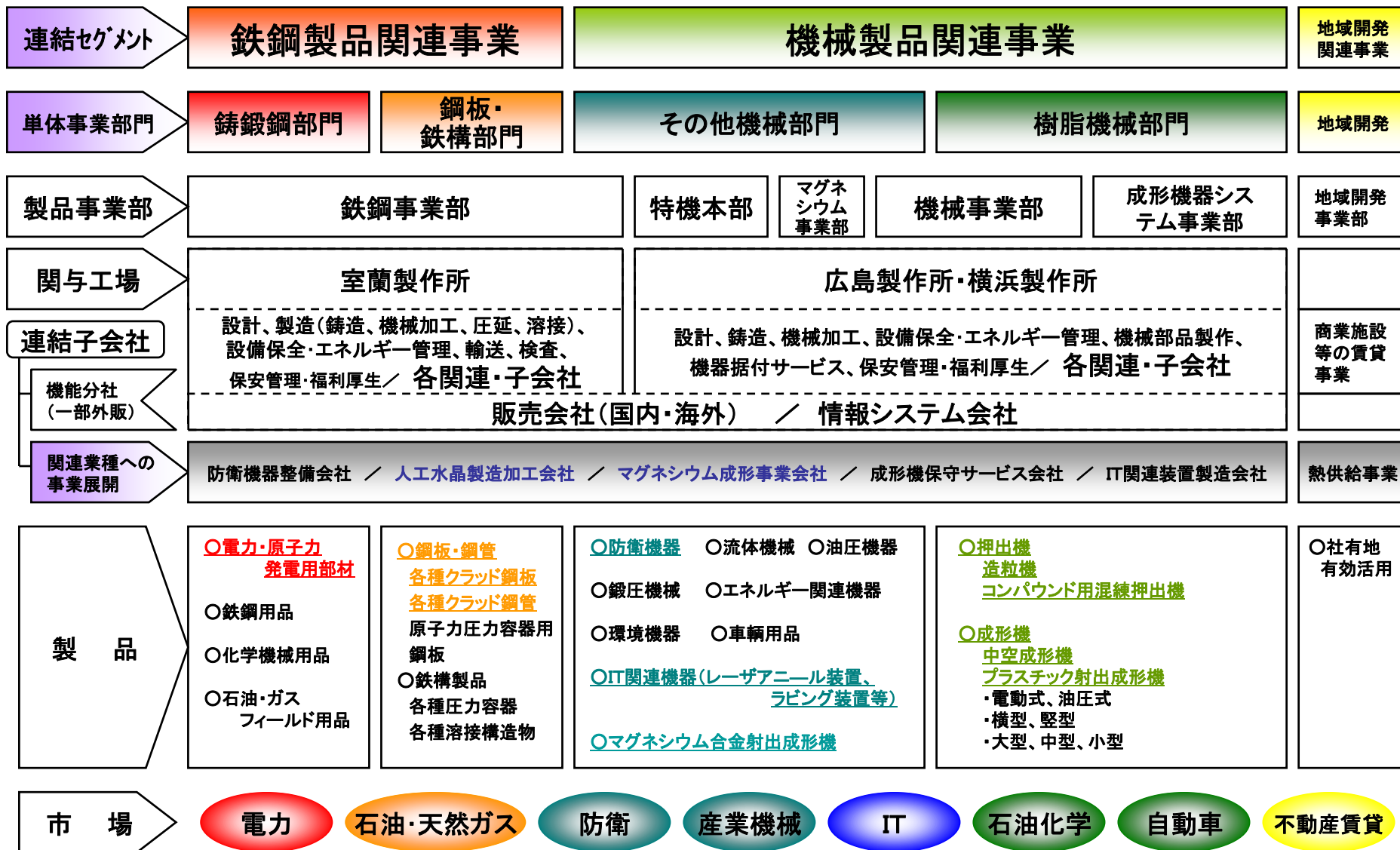


新中計の概要は06.3期
決算説明会時に説明
予定



説明会補足資料

事業部門の構成と当社製品群



当社の沿革

1907年 北海道炭礦汽船株式会社と英国アームストロング・ウイトウォース会社とビッカース会社の3社共同出資により設立。資本金1,000万円。本社及び工場を北海道室蘭におく。

1920年
～ 広島、横浜、東京に製作所を設置。

1938年
1950年 商号を(株)旧日本製鋼所と変更のうえ解散。資本金2億円をもって(株)日本製鋼所を設立。旧会社から室蘭・広島・横浜・東京の4製作所および本店その他の営業所を継承して新発足。

1983年 横浜製作所を移転。
デミング賞実施賞受ける。

1991年 広島製作所にて樹脂機械関連技術開発センター完成。

1992年 東京製作所跡地に府中インテリジェントパーク竣工(本社の一部をJタワーに移転)

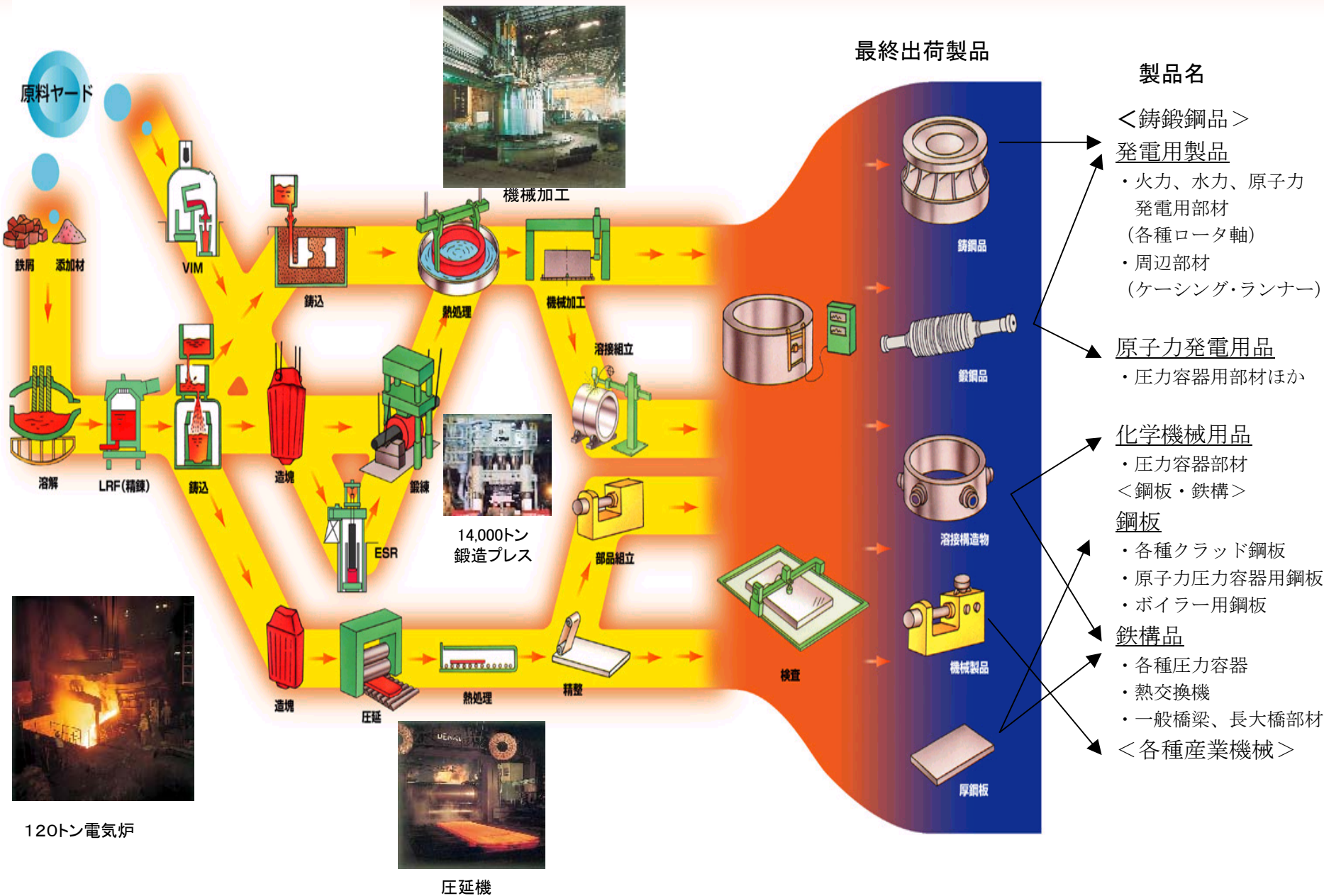
1994年 ISO9001・9002の認証を取得。

1998年 ISO14001の認証を取得。

2003年 室蘭製作所にて
14,000トン鍛造プレス竣工。



鑄鍛鋼製品 鋼板・鉄構製品の製造工程 鋼づくりを原点とする製品群



樹脂機械 樹脂製造機械から加工機械までのフルラインナップで市場拡大

樹脂機械(プラスチック関連技術・装置の流れ)



ポリマー重合リアクター
(石油化学プラント)

連続ミキサー
造粒システム

超大型造粒装置(CMP)



処理量: 20-50万トン(年)
モータ: 5,000-12,000KW

ミキサー
フィーダー

ホッパー

ペレット

コンパウンド用押出機
「TEXシリーズ」



高機能化

二軸混練押出機(TEX)

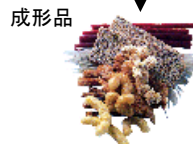
コンパウンド
ペレット

超大型化

食品加工機



食品用押出機



組織化タンパク・スナック類

押出成形機



A-PETシート製造装置



紡糸・シート製品

中空成形機

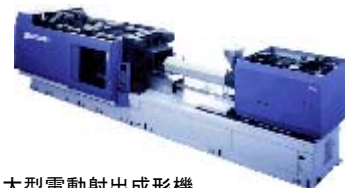


NB150-2CCE連続多層中空成型機



ガソリタンク類

射出成形機



大型電動射出成形機
J-ELIIIシリーズ(650)

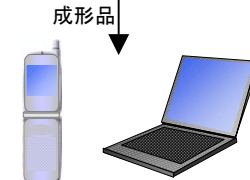


自動車用部品

マグネシウム
射出成形機



新シリーズマグネシウム合金
射出成形機(280トン)



通信機器 情報機器

廃プラスチック減容・脱塩素処理設備・システム(リサイクル処理、固形燃料処理)

連結財務諸表の概要

(単位:百万円)

	02.3	03.3	04.3	05.3中間	05.3	06.3中間	06.3予想
経営成績							
売上高	131,976	134,268	136,309	67,065	158,274	78,252	167,000
営業利益	4,288	5,813	6,394	2,165	7,721	4,299	10,100
経常利益	1,835	3,000	4,558	1,406	6,210	3,674	8,600
当期純利益	756	831	2,000	986	3,284	2,237	4,600
一株当たり当期純利益	2.03	2.23	5.39	2.65	8.70	6.02	12.39
株主資本当期純利益率	1.5	1.6	3.7	1.8	5.7	3.8	7.3
売上高経常利益率	1.4	2.2	3.3	2.1	3.9	4.7	5.1
財政状態							
株主資本	50,559	50,880	54,540	54,527	57,461	59,823	62,700
株主資本比率	27.6	29.3	30.3	28.5	31.1	31.0	33.6
一株当たり株主資本	136.11	137.00	146.86	146.83	154.59	161.11	168.85
キャッシュフローの状況							
営業活動によるキャッシュフロー	4,133	9,928	8,232	△4,268	7,291	△1,896	△800
投資活動によるキャッシュフロー	525	△1,888	△2,791	△1,822	13,611	△2,092	△5,400
財務活動によるキャッシュフロー	△2,150	△5,283	△5,959	5,528	△11,918	△1,286	△3,400
現金及び現金同等物期末残高	12,910	15,613	15,142	14,580	24,111	18,858	14,500